

令和2年4月1日

恵み野西町内会 会

長 武藤 光一

防災部長 高橋 修

## 防災ニュース 4月号

阪神/淡路大震災から25年、東日本大震災から9年、熊本地震から4年、胆振東部地震から1年半皆さんの脳裏から少しずつ忘れられているのではないのでしょうか。

胆振東部地震では多数の方がなくなりましたがほとんどの人は土砂崩れによるものですが、家具の転倒によりその下敷きになり亡くなられた方がおられました。

食料の備蓄等は当然ですが地震から、「けがなく生きる」ことが大切です。

震度5弱を超えると人は思ったような回避行動がとれなくなります

その時、室内の家具は凶器に変貌します。そこで家庭内の人が長時間いる場所（居間・寝室）の家具の配置等見直しましょう

### ① 家具数は適正か

安全に暮らすためには、家の広さで持ち込める家具数は決まってきます。

0.3個/㎡以上家具が置いてある部屋は【危険空間】となります。そのような部屋は50%以上の確率でけがをする危険性の高い部屋ですので、できるだけ家具の数を減らすようにしましょう。

### ② 家具配置は適切か

家族団らんの場に家具が集中していて、そこでけがをしてしまいます。安全な空間と危険な空間が存在します。適正な家具数であれば、家具の配置を見直すことで安全な空間を作り出すことができます。自宅を見直してみましょう。

震度6以上危険範囲

